

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



文部科学省
地(知)の拠点

平成30年度「ふくい地域創生士」認定証授与式・「ふくい地域創生アワード」表彰式

2月27日、県内の4年制5大学〔(福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学及び敦賀市立看護大学)連携事業(COC+事業)〕は、第2回「ふくい地域創生士」認定証授与式と第1回「ふくい地域創生アワード」の表彰式を大学連携センター(Fスクエア)で行いました。式には、認定または表彰を受けた学生のほか、本事業の協働機関である福井県、商工会議所連合会、経営者協会、経済同友会、県医師会、県看護協会、福井まちなかNPOの方々と、約80名が出席しました。

「ふくい地域創生士」は“ふくい”というフィールドで地域に興味を持ち、理解を深めるための地域志向科目を学び、インターンシップなどの経験を通して地域の課題解決に貢献できると認められた学生で、今年度は75名を認定しました。「ふくい地域創生士」は、昨年度の認定者50名を含めて125名となりました。



認定式の様子

さらに、今年度新設した「ふくい地域創生アワード」では4名が表彰されました。ふくい地域創生士として活動し、地域の持続的発展や地域産業の振興に繋がる研究成果などの顕著な業績があったと認められる学生を称える制度です。

ふくいCOC+事業推進協議会議長である福井大学の眞弓光文学長が「これからの皆さんの学びの継続と成長のための努力を支える、精神的支柱のひとつとなることを願っています」と激励しました。

式典に続いて、「ふくい地域創生アワード」の表彰を受けた福井大学医学部看護学科4年の若林未来也さんが、「永平寺町消防団での地域防災活動、高校生への看護の魅力について」を、福井県立大学生物資源



アワード授賞学生による成果発表

学部生物資源学科4年の福田倫子さんが、「福井県の農地に生育する雑草種と難防除雑草種の把握」をテーマに、活動の実績や研究成果を発表しました。

その後開催された、「アドバイザー・ボード・ミーティング」(平成30年度認定者と、事業協働機関関係者、県内4年制大学の教職員が参加し、ワークショップ形式で行う意見交換の場)では活発な意見交換が行われました。こちらについては、来月号にて詳しく掲載させていただきます。



アドバイザー・ボード・ミーティングの様子

COC+共同開講授業風景

水曜4限 「歴史」のトピア(歴史文化論から歴史教育まで)

講義の前半では、「1930年代のドイツの中学校の時間割を作成する」というテーマでグループワークに取り組み、過去と現在(今日のわが国の教育システム)を比較する活動を通して「考える」歴史を体験してもらいました。

後半は、農耕・牧畜文化論、宗教論などの多様な分析の枠組みを用いて、東西の歴史事象を比較したり、分析したり、評価したりすることに取り組んでももらいました。

時には大学入試の日米比較や、地域・ナショナリズム・グローバリズムから見る多様な歴史像も紹介しながら、学生達には、歴史を見る目(歴史的思考力～COC+事業におけるリベラルアーツの学び～)を養ってもらいたいと願っています。

(福井大学 アドミッションセンター 専任講師 中切 正人先生より寄稿いただきました)



授業風景

1月20日、昨夏の国際交流サマーキャンプに続き、留学生定着WG、福井大学留学生会、若狭高浜観光協会の3者共同イベント第2弾「若狭高浜自然(SI-ZEN)文化体験」が実施されました。

今回は、自然とZEN発祥地としての自然文化体験をコンテンツとして、高浜町への外国人旅行者の誘客をサポートする若狭高浜観光協会から、モニター参加のオファーを受け、留学生14名(インド1名、ベトナム2名、台湾1名、中国9名)が参加し実現したものであります。

健康茶づくり体験、古民家ヨガ体験、SUP (Stand-up Paddling)体験、座禅体験、組子キーホルダー作り体験、紙染めと書道体験、いちご狩り体験等々の中から留学生が希望の体験を選んで参加するという形のものでした。選ばれたのは、古民家ヨガ、SUP、座禅、いちご狩りの4体験でしたが、寒さ厳しい冬の海でサーフボードに乗ってパドリングするSUP体験に挑戦する学生が4名もいたのは驚きでした。

参加者らは、まず若狭フグをふんだんに使った創作料理の昼食に舌鼓を打ち、力をつけたあと、それぞれの体験に臨みました。

初めてのヨガ、冬の海での寒中パドリング、座禅による精神統一、旬のいちごの味比べなど十二分に楽しみ、若狭高浜の自然文化を満喫しました。

留学生がモニター体験したことで、自治体等の更なる外国人旅行者の誘客に繋がり、地域が盛り上がることに寄与できればと思います。



古民家ヨガ体験の様子



雨の中でのSUP体験の様子



いちご狩りの様子

(福井大学 国際センター教授 虎尾 憲史先生より寄稿いただきました)

2月27日、福井大学が開講する「キャリアデザイン」科目の一環として、24名の学生とキャリア支援室職員の2名が中部国際空港へ企業訪問しました。この授業はインターンシップWGが中心となって取り組み、学生の職業専門性を培うことを目的としています。なお、中部国際空港は、「顧客満足度世界No.1の空港になる」という挑戦に取り組み、見事「地方空港部門世界No.1」を獲得するとともに、日本で唯一、民営で行う空港管理の独自の取組みなどが行われています。

空港では、航空機発着に関わる管理部門の見学や、新たに10月にオープンした「フライト・オブ・ドリームス」の運営と課題についての説明を受けました。国際空港という職場で、若手社員が自由闊達に働く雰囲気やプロ意識に触れ、地域性を持ちながらも地域の殻に閉じこもらない、まさに地域と世界が混然一体となった職場を体感し、ローカルとグローバルの連鎖を考える学生たちには大きな刺激となりました。



フライト・オブ・ドリームス

参加した学生からは、「専門的な知識だけではなく、ひとりの人間が効率よく仕事を行っていくことの必要性や、コミュニケーション力、また異文化に向けての多様性など、社会で求められる人材について理解出来た」などの感想も寄せられました。学生の自己実現に向けた基礎能力アップに対する意識の向上にも繋がりました。

また、今回の中部国際空港訪問の背景には、福井大学OG現役社員のサポートもあり、学生目線からの人材育成における「ロールモデル」の有用性と影響力の強さを強く実感しました。

(福井大学 キャリア支援室 特命職員 河崎 千鶴様より寄稿いただきました)



説明会の様子

編集後記

「蛭雪(けいせつ)」という故事成語があります。その意味は、辛苦して勉学に励むことです。具体的には夏に集めた蛭と、冬に窓から入る雪明りを使って書物を読む姿を指しています。今年の冬は去年に比べ、雪がとても少ないです。しかし勉学に関しては、どのような時であっても真摯に向き合う姿勢を維持したいものです。学生の皆様が「蛭雪(けいせつ)」の功を積むことができるように、微力ながら応援しております。(池田)

